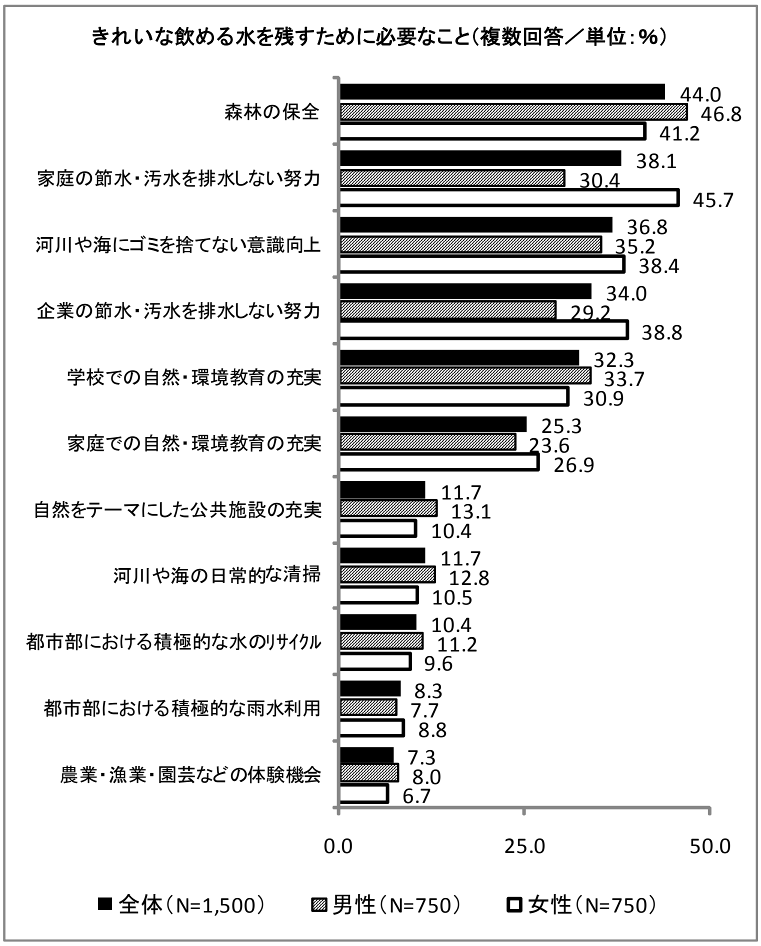
Q.きれいな飲める水を残すために必要なことは？ （11択＋その他）

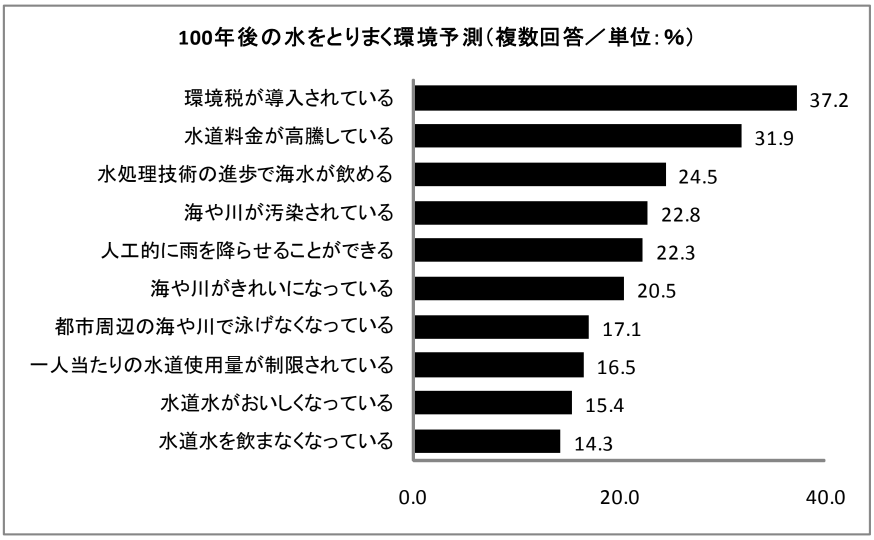
◇男性は「森林保全」や「教育」、女性は「家庭」「企業」の努力が上位に

「将来にわたって、きれいな水が飲めるようにするために必要なこと」を聞いたところ、全体の1位は「森林の保全」（44.0%）で、以下「家庭の節水・汚水を排水しない努力」（38.1%）、「河川や海にゴミを捨てない意識向上」（36.8%）と続きました。

男女別に見ると、男性は「森林の保全」（46.8%）、「河川や海にゴミを捨てない意識向上」（35.2%）、「学校での自然・環境教育の充実」（33.7%）の順で、“将来展望型”ともいえる項目が1位と3位に入っています。女性は「家庭の節水・汚水を排水しない努力」（45.7%）、「森林の保全」（41.2%）、「企業の節水・汚水を排水しない努力」（38.8%）の順で多く、女性は家庭での努力とともに、企業の具体的なアクションを望む“即実行型”といえそうです。



Q.100年後の水をとりまく環境は？ （26択＋その他）

◇3人に1人が「環境税導入」「水道料金高騰」を予測
◇「100年後」にはポジティブな見方も

「100年後の水をとりまく環境」の予測1位は「環境税が導入されている」（37.2%）、2位は「水道料金が高騰している」（31.9%）と、金銭的負担の増加が上位を独占しました。その一方で、「水処理技術の進歩で海水が飲める」（24.5%）、「人工的に雨を降らせることができる」（22.3%）、「海や川がきれいになっている」（20.5%）といったポジティブな見方もそれぞれ20%以上が予測しました。